

本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・校訓『誠実・忍耐・努力』の実践</li> <li>・主体的に「学び続ける生徒」を育てる特色ある教育活動の実践</li> <li>・社会の変化に柔軟に対応しながら、国際的視野の獲得と同時に地域にも根ざした魅力ある学校づくりの推進</li> <li>・生徒ひとり一人を大切に、生徒の将来像を見据えたキャリア指導の徹底と高大接続への具体的な指導環境の整備</li> <li>・生活習慣および規範意識を身につけさせ、他者と協働していくことのできる生徒の育成</li> </ul>
---

領域	重点評価項目	学年末評価
1 学校経営	『地域に根ざした魅力ある学校』を目標とし、特色ある学校づくりを進めている。	A
	本校の生徒は充実した学校生活を送っている。	A
	本校に入学した保護者の満足度は高い。	A
	滋賀学園の教職員としての使命・職務を自覚し、教育活動を推進している。	A
2 学習指導	授業時間を確保し、シラバスに基づいた計画的な学習指導を行っている。	A
	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	A
	成績が低迷した場合に適切なフォローの仕組みがあり、補習授業等の取り組みが行われている。	A
	校内外の研修等を通じて、確かな教科指導力向上を図り、生徒の授業満足度を大きく高めるよう努めている。	B
3 生活指導	遅刻や服装など、基本的な生活習慣の確立を目指す指導を適切に行っている。	A
	生徒と保護者は教員とのコミュニケーションが十分とれ、その指導に納得している。	A
	生徒との良きコミュニケーションに努め、挨拶等の礼儀指導を適切に行っている。	A
	いじめや不正の実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見を心がけている。	A
	カウンセラーや専門機関との連携を緊密にし、生徒・保護者への相談活動を活性化しよう心がけている。	A
	生徒のトラブルや学校生活での問題に対して、迅速かつ適切な対応をしている。	A
4 進路指導	各学年と連携し、「一つ上をめざす」進学意識を育てている。	B
	進路学習と連携し、大学受験等をめざした講習等を計画的に実施している。	A
	進路LHR等を利用し、個に応じた丁寧な進路指導を行っている。	A
	学年と連携を図り、年次進行における進路ニーズを把握して、望ましい勤労観・職業観を育成している。	A
	進路説明会や入試情報など進路情報の提供に努めている。	A
	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制をとっている。	A
	模試後の面談等によって、生徒の学力分析ができ、その後の学習指導に役立てている。	B
生徒が意欲的に自分の将来を考え、決定できるように全教員が様々な場面で支援している。	A	
5 特別活動等	生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の学校生活をより良いものにしていく。	A
	生徒の発達段階や学年に応じたLHR活動を計画的に行い、内容の充実を図っている。	A
6 学校図書室	教科指導や特別活動において図書室を積極活用し、利用の拡大を図っている。	A
	読書活動を推進し、生徒の貸し出し数の増大を図る取り組みを行っている。	B
7 保健指導	健康への関心を高め、食物や薬物、性に対する正しい知識を身につけるよう指導している。	A
	教育相談やカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	A
8 人権教育	あらゆる機会を通じて、命の尊厳と大切さを認識させる教育を実践している。	A
	人権意識を高める指導が日常的に行われている。	A
	人権に関する教育を充実・発展させるための学習、講演会等の充実に努めている。	B
9 環境教育	校内美化に積極的に取り組んでいる。	A
	ゴミの減量化に努め、光熱費の節減に努めている。	B
10 事務・管理	学校や施設・設備の安全管理に努めている。	A
	施設・設備の省エネに努めている。	A
11 その他 学校の取組み	高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携を積極的に行っている。	A
	学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めている。	A
	課外活動において高い競技力や技術力等を身につけさせることを通して、心身の成長を図り、人間性を高める指導に努めている。	A
	学校ウェブページ等で学校情報を地域や保護者に積極的に発信している。	A
総合評価		A

・評価値の基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。

## 令和2年度学校評価 分析・総括

**<全体>** 今年度は新年度当初から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により臨時休業の措置をとることとなった。年度当初に予定されていた学校行事は内容の縮小や実施自体の中止を余儀なくされ、その対応に苦慮した。幸い本校はICT教育の環境整備を推進していることにより、新入生に対しても臨時休業前にiPadを手渡すことが可能となった。臨時休業中は、それぞれの学年や教科担当が家庭学習中の生徒に対して、授業や宿題の配信を行うことができた。当初は端末機器へのログイン等の課題があったが、おおむね順調な滑り出しで、学校再開後の授業展開や生徒の電子機器を使用した取り組みにも好影響をもたらした。次年度は、新教育課程編成に向けたスクールポリシーの策定、学校ランドデザインの見直し、教育の情報化のさらなる充実を目標に学びの質の向上に取り組むことが課題である。

**<学習指導>** 大学入学共通テスト開始の年度であったため、キャリアサポート部を中心に新テストへの対応を協議し、準備を進めていたが、行政側の混乱から、英語外部検定の利用や記述式問題等目玉となる改革項目の導入が先送りされてしまった。しかし、思考力・判断力を問う問題は今後も出題されることは継続すると思われ、これらの対策については、1年次から地道に取り組む必要がある。また、自分の学習スタイルを確立するところまで到達できていない生徒も少なからず存在しているので、主体的・計画的な学習について個別面談等も実施を計画しながら、具体的に指導する必要がある。成績不振者を対象にした教科指導を地道に行ったことにより、考査での欠点者が減少するという成果が出ており、進んで講習を受けたいという積極的な生徒も増加していると報告されている反面、一つ上を目指そうとする高い進学意識を持つ生徒に割く時間の不足が課題であるとの声も教員サイドから上がっている。次年度はバランスの取れた取り組みへと指導内容を改善してゆかなければならない。学習面におけるICT活用促進については、各教科において活用の事例集を作成できるくらい成果を得ることができた。探究活動の取組についても推進されてきているが、授業交流、教科横断型授業の開発等についてはさらなる活性化が必要である。また、人権学習においても学年ごとの取り組むテーマに従って、学習を進めなければならない。各クラスの担任だけでなく、生徒にかかわるすべての教職員が学ぶ研修の場を確保し、充実させる必要がある。

**<生活指導>** 基本的な生活習慣は確立できつつあるが、今年度は特に家庭学習期間が長期化した影響か授業再開後、生活リズムを崩す生徒が見られ、遅刻をする生徒に増加がみられた。遅刻が度重なる生徒には、早い段階で生活指導部が学年・担任を中心に連携し、改善されるまで指導することができた。ほとんどの生徒がしっかり時間を守れる中、遅刻ぐらいと考えている生徒の意識の変革ができるよう今後も粘り強く指導しなければならない。また、新型コロナウイルス感染症感染防止による緊急事態宣言下、スマートフォン等を利用する時間が増えたことからか、生徒同士が仮想上のコミュニケーションしかとれなかったことに起因するSNSを通してのトラブルが数件確認された。この事象に対しては学校再開後、緊急にSNSの危険性を理解させるような講演会やLHRを行うことで対処できた。今後も継続して情報モラル教育と人権教育は切り離さず指導してゆく必要がある。今年度第1学年において事象

発生件数が多いのは、仲間づくりや学級づくりができる直前に学校が休業になってしまったことに加えて、公共心の未熟さ、他者への感応力の欠如ゆえと思われる。生徒間の人権意識を高め、教員に相談しやすい雰囲気作りを平素から心がけ、人権侵害やいじめの芽の早期発見に努めたい。また次年度からは学校内におけるスマートフォンの取り扱いのルールを学校全体として改めて徹底する取り組みを行う予定である。生徒会活動においては、今年度も新型コロナウイルス感染症感染防止に最大限の対策を行いオープンスクールの運営やハイスクールセーフティリーダーとしてのボランティア活動など、校内外の活動に積極的に関わってくれている。引き続き他の生徒の生徒会活動への理解を深化させ、学校全体としての取り組みとしたい。

**<進路指導>**2020年度の入試制度改革が行政レベルで迷走する中、生徒につけさせたい力は普遍的なものでなくてはならない。教育課程の中でも「社会とのかかわり」や「探究活動」を意識した内容の授業を今年度も展開しているところではあるが、生徒の家庭学習時間の減少や学習意欲の低下が社会的にも問題となっている。本校においてもデータから同様の傾向がみられる。学習アプリの利用促進を含め、iPadを使用した宿題等の配信を強化するなどの取り組みが継続して必要だと感じる。就職に関しては好景気に支えられた求人数となっているが、就職希望者の基礎学力の定着が明暗を分けている。進学者においても同じような傾向はみられ、高等学校で学習する内容理解の徹底と深化が再び注目される時代となってきている。今後も系列大学との高大連携教育を推し進めるとともに生徒の多様な進路希望に応え、生徒が意欲的に自分の将来を考え、決定できるように全教員が様々な場面で支援し続けることが重要である。また、各大学訪問の時期や目的については再検討を要し、できるだけ多くの大学に対して、本校の特色や取り組みを広報する機会を持つ努力を継続することが喫緊の課題である。今後も大学入試制度については、様々な変更が次年度もなされる予定であるため、一層迅速な情報提供と対応に努めるとともに、教員の各種研修への参加をオンラインも活用しながら参加機会を確保する。

**<学校図書館>**今年度は図書室のリニューアルによって生徒が利用しやすい環境整備を行った。その結果、教員からの積極的な働きかけも奏功し、放課後も学習のために利用する生徒も増加傾向にある。今後は蔵書、特に新書をより充実させ、積極的な利用と質の高い図書に触れる機会を増やし、学びたい、知りたいという生徒の積極的な姿勢に応える活発な図書館利用を促したい。

**<環境教育・事務・管理等>**校舎等の安全点検は計画に則って実施できている。今年度は特に新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックが発生し、本校も感染拡大防止の観点から長期間の学校休業をやむなくされた。危機管理の点から、今回の内容を教訓にして、いかなる自然災害や新型ウイルス感染症に対しても、生徒が安全安心に学校生活を送れるような体制作りを毎年見直し、学校管理体制のさらなる充実に努めたい。